

平成22年3月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成21年7月31日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 ワットマン

コード番号 9927 URL <http://www.wattmann.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 清水 一郷

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長経理管掌

(氏名) 田中 和雄

TEL 045-959-1100

四半期報告書提出予定日 平成21年8月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	838	20.1	72	356.2	71	158.5	69	212.1
21年3月期第1四半期	698	—	15	—	27	—	22	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	6.35	—
21年3月期第1四半期	2.04	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	3,252	1,828	56.2	167.15
21年3月期	3,377	1,764	52.2	161.27

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 1,828百万円 21年3月期 1,764百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
22年3月期	—				
22年3月期(予想)		0.00	—	2.00	2.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期累計期間	1,500	6.7	60	—	50	755.0	45	△2.3	4.11
通期	3,100	3.5	150	235.3	120	240.0	110	51.5	10.05

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表】 4. その他をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	11,368,541株	21年3月期	11,368,541株
---------------------	-------------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	427,816株	21年3月期	427,816株
-----------	-------------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第1四半期	10,940,725株	21年3月期第1四半期	10,940,725株
--------------------	-------------	-------------	-------------	-------------

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、世界経済の急激な景気後退の影響による企業収益の減少や雇用情勢の悪化から個人消費の低迷を招き、非常に厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社はリユース事業をさらに進化させ、利益拡大を図るため、積極的な買取を継続し、全数生産（商品化）と売場への全数出し切り、さらにアイテム数の増大と計画的な売価変更による商品鮮度向上をすすめてまいりました。

また、豊富な品揃えと魅力ある価格設定でお客様の購買意欲を高め、さらに買取査定・生産（商品化）・出し切り・売価変更の各作業の簡素化を実現し、マニュアルの整備とその標準化をすすめ、売上高の増加と粗利額・率の向上ならびに経費削減に努めてまいりました。

(1) 売上高

（既存店）

既存店売上高は、営業政策を徹底推進させ、前年同期間比17百万円（3.3%）増収の5億70百万円となりました。

（新店）

前事業年度中に新たに開設した店舗（ブックオフ鎌倉手広店、オフハウス逗子店、ハードオフ・オフハウス横須賀佐原店及びブックオフ横浜本郷台店）5店の売上高は1億43百万円となりました。

（移転・改装店）

前事業年度中に移転した店舗（ハードオフ・オフハウス鎌倉手広店）及び改装した店舗（オフハウス北久里浜店及びハードオフ・オフハウス横浜本郷台店）の売上高は前年同期間比6百万円（5.2%）減収の1億24百万円となりました。

この結果、売上高は前年同期間比1億40百万円（20.1%）増収の8億38百万円となりました。

事業部門別の売上高は以下のとおりです。

（オフハウス事業）

婦人服・メンズ衣料品、貴金属、バッグが順調に売上を伸ばし、売上高は前年同期間比70百万円（20.7%）増収の4億9百万円となりました。

（ハードオフ事業）

ソフト・コンピューター・ビジュアル商品の積極的な買取強化により健闘いたしましたが、売上高は前年同期間比9百万円（3.9%）減収の2億25百万円となりました。

（ブックオフ等事業）

書籍（コミック・文庫本）や音楽ソフト・DVDソフトが順調に推移し新店の健闘が大きく、売上高は前年同期間比79百万円（63.4%）増収の2億3百万円となりました。

(2) 営業利益

（既存店）

既存店営業利益は、売上高が増加したこと及び売上総利益率が前年同期間比2.2ポイント改善したことにより、前年同期間比17百万円（36.8%）増益の64百万円となりました。

（新店）

前事業年度中に新たに開設した店舗の営業利益は、前年同期間は24百万円の営業損失でしたが、当四半期は業績が順調に伸びた結果、2百万円の営業損失となり大幅な改善となりました。

（移転・改装店）

前事業年度中に移転・改装した店舗の営業利益は、売上総利益率が前年同期間比3.6ポイント改善したこと及び経費を削減したことにより、前年同期間比16百万円（前年同期間は営業損失6百万円）増益の10百万円となりました。

この結果、営業利益は前年同期間比56百万円（356.2%）増益の72百万円となりました。

(3) 経常利益

営業外収益が8百万円、営業外費用が9百万円となり、経常利益は前年同期間比43百万円（158.5%）増益の71百万円となりました。

(4) 四半期純利益

当第1四半期純利益は前年同期間47百万円（212.1%）増益の69百万円となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

（資産）

流動資産は、前事業年度末に比べて1億15百万円減少し、11億49百万円となりました。これは主に現金及び預金が85百万円、商品が30百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて8百万円減少し、21億2百万円となりました。これは主に有形固定資産が9百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は前事業年度末に比べ1億24百万円減少し、32億52百万円となりました。

（負債）

流動負債は、前事業年度末に比べて1億11百万円減少し、5億32百万円となりました。これは主に、短期借入金が80百万円及び1年内返済長期借入金が26百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて77百万円減少し、8億91百万円となりました。これは主に、長期借入金が76百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ1億88百万円減少し、14億23百万円となりました。

（純資産）

純資産合計は、前事業年度末に比べ64百万円増加し、18億28百万円となりました。これは主に、利益剰余金が47百万円増加したことによります。

3. 業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成21年5月15日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 棚卸資産の評価方法

当第1四半期累計期間末のたな卸高の算出に関しては、前事業年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

2. 固定資産の減価償却費の算定方法

四半期ごとの資産増減実績を加味した年間償却予定額の月割累計相当額から、以前の四半期決算に計上した償却累計額を控除した額を、当該四半期決算の償却額とする方法によっております。

3. 法人税等の計上基準

法人税等の計上基準は、年間業績予測に基づく簡便法により計算しております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	389,467	474,962
売掛金	18,695	15,411
商品	594,333	624,825
その他	147,279	150,267
流動資産合計	1,149,775	1,265,466
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	394,348	402,917
土地	583,125	583,125
その他	91,169	92,281
有形固定資産合計	1,068,643	1,078,325
無形固定資産	4,816	4,996
投資その他の資産		
長期預け金	799,158	808,805
その他	230,180	219,576
投資その他の資産合計	1,029,339	1,028,382
固定資産合計	2,102,799	2,111,703
資産合計	3,252,575	3,377,169
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,365	4,309
短期借入金	354,056	460,056
未払法人税等	5,176	13,997
賞与引当金	13,500	9,000
その他	153,200	155,965
流動負債合計	532,298	643,328
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	514,638	591,402
退職給付引当金	977	—
その他	175,944	178,079
固定負債合計	891,559	969,481
負債合計	1,423,857	1,612,809

（単位：千円）

	当第1四半期会計期間末 （平成21年6月30日）	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 （平成21年3月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	1,681,733	1,681,733
利益剰余金	398,211	350,571
自己株式	△56,983	△56,983
株主資本合計	2,522,961	2,475,321
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△12,856	△29,573
土地再評価差額金	△681,387	△681,387
評価・換算差額等合計	△694,243	△710,961
純資産合計	1,828,717	1,764,360
負債純資産合計	3,252,575	3,377,169

(2) 【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

（単位：千円）

	前第1四半期累計期間 （自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）	当第1四半期累計期間 （自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）
売上高	698,176	838,595
売上原価	271,304	314,548
売上総利益	426,871	524,046
販売費及び一般管理費	410,892	451,147
営業利益	15,978	72,899
営業外収益		
受取利息	2,310	2,190
受取配当金	3,375	3,230
雑収入	16,810	2,754
営業外収益合計	22,495	8,174
営業外費用		
支払利息	6,894	5,722
雑損失	3,127	2,609
社債利息	—	954
その他	750	164
営業外費用合計	10,772	9,450
経常利益	27,702	71,623
特別損失		
固定資産除却損	—	151
投資有価証券評価損	1,821	—
特別損失合計	1,821	151
税引前四半期純利益	25,880	71,471
法人税等	3,605	1,950
四半期純利益	22,275	69,521

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	25,880	71,471
減価償却費	15,340	18,030
長期前払費用償却額	3,532	7,526
賞与引当金の増減額（△は減少）	△10,500	4,500
退職給付引当金の増減額（△は減少）	—	△1,128
受取利息及び受取配当金	△5,685	△5,420
支払利息	6,894	6,676
支払手数料	750	—
有形固定資産除却損	—	151
投資有価証券評価損益（△は益）	1,821	—
売上債権の増減額（△は増加）	7,378	△3,284
たな卸資産の増減額（△は増加）	△19,536	30,491
仕入債務の増減額（△は減少）	2,537	2,056
未払費用の増減額（△は減少）	24,415	△5,242
未払消費税等の増減額（△は減少）	△15,660	10,228
その他の資産の増減額（△は増加）	△67	△7,275
その他の負債の増減額（△は減少）	△27,424	△662
小計	9,677	128,121
利息及び配当金の受取額	3,375	3,281
利息の支払額	△7,320	△6,834
法人税等の支払額	△10,527	△13,771
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,795	110,797
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△13,700	—
有形固定資産の取得による支出	△80,011	△8,321
長期預り金の受入による収入	42,000	—
長期預り金の返還による支出	△93,080	—
敷金及び保証金の回収による収入	15,761	16,561
敷金及び保証金の差入による支出	△3,000	—
その他の支出	△2,000	—
その他	113	113
投資活動によるキャッシュ・フロー	△133,917	8,353
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	50,000	△80,000
長期借入れによる収入	100,000	—
長期借入金の返済による支出	△88,470	△102,764
配当金の支払額	—	△21,881
財務活動によるキャッシュ・フロー	61,530	△204,645
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△77,182	△85,494
現金及び現金同等物の期首残高	371,761	464,962
現金及び現金同等物の四半期末残高	294,578	379,467

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第1四半期累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）
該当事項はありません。

6. その他の情報

(1) 仕入及び販売の状況

1. 商品仕入実績

当第1四半期累計期間における商品仕入実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別	金額（千円）
ハードオフ事業	83,259
オフハウス事業	127,327
ブックオフ等事業	73,470
合計	284,056

(注) 1 金額は仕入価格によっております。

2 上記の金額には、消費税は含まれておりません。

2. 販売実績

当第1四半期累計期間における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別	金額（千円）
ハードオフ事業	225,384
オフハウス事業	409,286
ブックオフ等事業	203,925
合計	838,595

(注) 1 金額は販売価格によっております。

2 上記の金額には、消費税は含まれておりません。